

夏休みのリスク

校長

子育てや教育は、「〇〇すれば必ず◎◎になる」と言い切れないところに難しさがあります。

例えば、小さい頃から知育に力を入れれば必ず知的好奇心が旺盛になるわけではありません。何もしなくても発達する子もいます。同様に、食べ物の好き嫌いをすると必ず病気になるわけでもありません。ならない子はなりません。

しかし、概ね「そうなのではないか」という経験上の〈勘〉はあります。

今から30年ほど前、「脳トレ」というドリルやゲームが流行した頃、これを開発した大学教授は、人の体内時計は自然に遅型になりやすく、早型にする方に努力すべきだと言っていました。

時代は流れ、2022年2月20日(日)、新潟日報に「ADHD 似の症状 遅寝だと出やすく」という記事が載っていました。名古屋大と浜松医大のチームが発表したもので、午後10時より遅く寝る子どもは、ADHDと同じ症状が出やすく、誤診される恐れがあるという内容です。しかも、遺伝的にADHDになりにくい子どもほど、顕著だというものでした。

いわゆる「昼夜逆転の生活」です。そして私たちの経験では、昼夜逆転する多くの子どもは、夜中にゲームやタブレットに夢中になっています。強い刺激を目から長時間受けることで、脳は何らかのダメージを受けるのではないのでしょうか。

人間は簡単に夜型になってしまうことと遅寝によって落ち着きがなくなること。さらに遅寝の原因がゲームやタブレットにあること……。これらは、近年私たちが接している子どもの変化から感じている現象と一致したものです。

さらにこの後、NHKの番組では、現在の生活習慣が遺伝子に刻まれ、次の世代に受け継がれてゆくという内容を放送していました。過食の生活をしていれば過食する遺伝子に、怒りっぽい生活をしていれば怒りっぽい遺伝子にというものです。遺伝子は、古代から受け継がれるだけでなく、こうして今も絶えず更新されるのだと。

また、昨年度、不登校の研修で、講師の新潟大学の教授は、遅寝をして登校した児童は、「時差ぼけ」と同じ症状だと言っていました。しかも「時差ぼけ」は1日では回復せず、その週の2～3日は失うことになる。

もうすぐ夏休みに突中します。昔のように夏休み初日から8月31日まで、ずっとラジオ体操が続くことはありません。簡単に昼夜逆転できる日々がやってきます。

子どもたちに気を付けてもらいたい第1位は、もちろん安全です。しかし事故より高確率で誰にも降りかかるリスクは、昼夜逆転です。夜中までゲームやタブレットをして過ごすことのないよう、学校では指導します。

① 児童の資質・能力の育成

今年度の職員研修の主題を「考えを深める児童の育成」と定め、児童の資質・能力の向上を目指しています。

そのための手立てとして、「かかわり合いの中で深める支援の工夫」に取り組んでいます。ペアでとなりの友達とお互いの考えを伝え合ったり、グループで1つの考えについて議論したりするなど、様々な方法を取り入れ、それぞれの児童の考えを深める工夫を探っています。そして、児童同士がかかわり合って学ぶことで、より一層考えが深められるような支援ができるようにしていきたいと考えています。



② 職員研修による教師の授業力向上

職員研修の一環として、全学級で授業公開を行います。その都度、職員同士の共通理解を図ったり、情報交換を行ったりしながら、授業力の向上にも努めてまいります。そして、先述の主題「考えを深める児童の育成」の達成に向けて取り組んでいること、職員研修で学んだことなどを児童に還元していきたいと思えます。

③ Iプロジェクトによる取組

Iプロジェクトと称して、第一中学校区の小中3校での合同事業に取り組んでいます。学習指導部では、各校で共通して取り組む学習の約束や規律を話し合ったり、家庭学習の内容や取組時間を情報交換したりして、足並みそろえて取り組めるようにしています。

今年度は、小学校・中学校の9年間を見通したときの家庭学習の取り組み方を話し合う予定です。目安時間（学年×10分）内に、取り組む内容や時間配分（宿題と自主学習のバランス）などを学年が上がるにつれて徐々にレベルを上げていけるような目安や見本を作成していきます。

信頼し合って豊かな生活をつくる子どもの育成

生活指導主任

① 子どもに寄り添う支援

子どもたちの日常生活に目を配り、表情や言葉遣い、服装、持ち物などから、小さなサインを見逃さないように心掛けています。また、年に3回「自分のことアンケート」を実施し、子どもたちの困っていることを把握したり、教育相談で子どもたちの声に耳を傾ける機会を設けたりして、児童理解に努めています。これらの取組によって見えてきた個々の実態をもとに、一人一人に寄り添った支援を行っています。

② お互いを認め合い、豊かなかかわりを創出する活動の実施

安心できる人間関係の構築を目指し、週1回「にじいろタイム」を実施しています。学級単位でレクリエーションなど、みんなで楽しい活動を行うことでかかわり合う機会を増やし、お互いのよさを知り、絆を深めていきます。お互いを認め合うことでどの子にとっても安心できる支持的な学級をつくっていきます。

③縦割り班活動の充実

縦割り班活動は、上学年にとっては下学年をまとめたりお世話をしたりすること、下学年にとっては上学年をお手本とすることにより、互いに相乗効果が生まれるとても有意義な活動です。縦割り班活動では、1～6年生までの全学年が入るように編成した縦割り班で、日々の清掃活動をします。また、高学年がリーダーシップをとり、声を掛け合いながら協力したり、縦割り班での遊び活動を行ったりします。



個別懇談会・学校評価等ご協力ありがとうございました

お忙しい中、個別懇談会への出席や学校評価等へのご協力を賜りまして、誠にありがとうございました。

学校評価については、10月の学校便りで結果をお知らせいたします。なお、いただいたご意見につきましては、今後の教育活動に活かしていきたいと思っております。今後とも変わらず教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

また、ご質問・ご相談等がありましたら、いつでも学校の方にご連絡ください。

ガンバメールについて

今年度、夏休み中の葉書及びメールによる「ガンバメール（暑中見舞い）」については行いません。そのため、送っていただいた暑中見舞いへ返事をお返しすることができません。それに伴い、郵便局から提供のあったはがきはありません。ご了承ください。

子どもの発達で気になることはありませんか？

- ・うまく発音できない言葉がある。ときどき言葉が詰まることがある。
- ・見え方や聞こえ方について気掛かりなことがある。
- ・学習の中で、ある部分だけが著しく苦手である。
(例 読むことは得意だが書くことは苦手 など)
- ・話しかけられているのに聞いていないように見える。
- ・いつもそわそわしてじっとしていない。過度にしゃべる。
- ・ある物事に強くこだわり、日常の活動ができなくなることがある。
- ・自分の思う通りに動いてしまい、コミュニケーションや集団行動が難しい。

みんなで共に学び、心地よい毎日が過ごせるように、一人一人に必要な支援を考えていきましょう。学級担任や特別支援コーディネーター、スクールカウンセラー等が相談に応じます。

担当 連絡先24-5525